



## 2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年1月31日

上場会社名 日本調剤株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3341 URL <https://www.nicho.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三津原 庸介  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長 (氏名) 東條 祐弘 TEL 03-6810-0800  
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第3四半期の連結業績 (2021年4月1日～2021年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	223,439	7.2	5,827	1.0	6,058	4.9	1,096	△67.8
2021年3月期第3四半期	208,337	4.7	5,767	2.4	5,773	5.9	3,410	11.5

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 1,112百万円 (△67.5%) 2021年3月期第3四半期 3,427百万円 (11.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	36.57	—
2021年3月期第3四半期	113.74	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	181,904	50,231	27.6
2021年3月期	186,262	49,868	26.8

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 50,231百万円 2021年3月期 49,868百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	12.50	—	12.50	25.00
2022年3月期	—	12.50	—		
2022年3月期(予想)				12.50	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2022年3月期の連結業績予想 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	294,600	5.6	7,000	△13.6	7,000	△16.8	4,000	13.0		133.39

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期3Q	32,048,000株	2021年3月期	32,048,000株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	2,061,175株	2021年3月期	2,061,074株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期3Q	29,986,867株	2021年3月期3Q	29,987,066株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1) 将来に関する記述等に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、現在入手している情報による当社の判断及び仮定に基づく予想であり、リスクや不確実性を含んでいます。また、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因により、これら業績予想等とは大きく異なる結果となる場合があります。

(2) 四半期決算補足説明資料の入手方法

四半期決算補足説明資料についてはTDnetにて適宜開示し、当社ホームページへも掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2021年4月～2021年12月）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響は徐々に緩和されるなかで、持ち直しの動きがみられる一方、新たな変異株が確認されるなど予断を許さない状況が続いており、経済情勢は依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような経済情勢のもと、当社グループでは、地域医療を担う医療機関として果たすべき使命を強く認識しながら、調剤薬局各店舗における感染防止対策を徹底しつつ、良質な医療の提供に努めてまいりました。また、収益性向上のため全社を挙げたコスト抑制にも継続して取り組んでおります。

当社グループにおいては、2021年12月には、サステナビリティへの取り組みをより一層強化し、実行するため「サステナビリティ基本方針」を策定し、代表取締役社長を委員長とする「サステナビリティ委員会」を設置いたしました。併せて当社が優先的に取り組むべきマテリアリティ（重要課題）の特定を行いました。

また、デジタルトランスフォーメーション戦略（DX戦略）を策定・公表し、取り組みを加速させてまいりましたが、当社のDX推進に向けた取り組み及びステークホルダーへの適切な情報開示が評価され、2021年12月に調剤薬局業界では初となる、経済産業省が定めるDX認定制度に基づく「DX認定取得事業者」に認定されました。

調剤薬局事業においては、2021年3月より全国の薬局でプレ運用の拡大を進めておりましたマイナンバーカードによる「オンライン資格確認」が同年10月より本格運用となり、全国663店舗（同年10月20日時点）での運用を開始いたしました。

医薬品製造販売事業においては、2021年11月に日本ジェネリック株式会社の製品及び商品の保管等を委託している外部の物流センター（西日本物流センター）において火災が発生したことにより、保管製品及び商品が被災しました。すでに東日本物流センターを中心に物流機能は概ね正常化しておりますが、被災した製品及び商品における損害額を特別損失に計上いたしました。なお、被災した製品及び商品はすべて保険の対象となっております。

一方、長生堂製薬株式会社においては、2021年10月に業務改善命令に対する業務改善計画書を策定し、グループ一丸となって再発防止及び品質管理の向上に取り組んでおります。また、同社は、業務停止命令による業務停止期間を満了し、同年11月12日より医薬品製造販売業及び医薬品製造業の業務を再開しております。

医療従事者派遣・紹介事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響が継続し、薬剤師派遣・紹介の需要減少が継続する中、新型コロナウイルスワクチン接種関連業務を含む医師紹介の実績が拡大しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高223,439百万円（前年同期比7.2%増）、営業利益5,827百万円（同1.0%増）、経常利益6,058百万円（同4.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,096百万円（同67.8%減）となりました。引き続き当社グループは、患者さま・お客さまに安心してご利用いただくため、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に全力で取り組み、良質な医療の提供を継続してまいります。

セグメント別の経営成績は以下の通りです。

#### ①調剤薬局事業

当第3四半期連結累計期間の売上高は197,389百万円（前年同期比9.0%増）、営業利益は9,108百万円（同30.3%増）となりました。12月末時点での総店舗数は、同期間に30店舗を新規出店、10店舗を閉店した結果690店舗（物販店舗1店舗を含む）となりました。売上高及び営業利益につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響が継続しているものの、前年度の出店効果及び処方箋枚数の増加等により増収増益となりました。なお、ジェネリック医薬品の数量ベース使用割合は、12月末時点で全社平均89.0%（供給停止品目を算出対象から除外して計算）と、全国平均を大きく超える水準となっております。また、在宅医療実施店舗の割合は12月末時点で全社平均92.4%（年間12件以上実施の店舗割合、新規店舗を含む）と順調に推移しております。

## ②医薬品製造販売事業

当第3四半期連結累計期間の売上高は35,274百万円（前年同期比0.1%増）、営業利益は1,294百万円（同41.3%減）となりました。売上高につきましては、2021年4月の薬価改定に伴う既存製品の販売価格の下落があった一方、2019年以降の新規薬価収載品の好調な販売等により増収となりました。営業利益につきましては、コスト削減の取り組みに加え、収益性を重視した販売方針及び新規薬価収載品を含む自社製造品目の販売拡大は継続しているものの、長生堂製薬株式会社の品質問題による製品回収等の影響及び行政処分による業務停止等の影響により大きく減益となりましたが、発表しました業務改善計画に基づき順調に改善を進めている状況です。なお、当第3四半期連結会計期間末での販売品目数は、669品目（一般用医薬品2品目を含む）となっております。

## ③医療従事者派遣・紹介事業

当第3四半期連結累計期間の売上高は5,207百万円（前年同期比21.6%減）、営業利益は423百万円（同35.1%減）となりました。売上高につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により薬剤師派遣の需要が減少し、減収となりました。営業利益につきましては、薬剤師派遣・紹介が縮小した影響等により減益となりましたが、新型コロナウイルスワクチン接種関連業務を含む医師紹介の実績が拡大傾向にあります。

## （2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は181,904百万円となり、前連結会計年度末の186,262百万円に対し、4,358百万円、2.3%減少いたしました。主に、現金及び預金の減少によるものです。

負債合計は131,673百万円となり、前連結会計年度末の136,394百万円に対し、4,720百万円、3.5%減少いたしました。主に、長期借入金の減少によるものです。

純資産合計は50,231百万円となり、前連結会計年度末の49,868百万円に対し、362百万円増加いたしました。この結果、自己資本比率は27.6%となりました。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年10月29日付「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」において公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、本日公表の「（開示事項の経過）連結子会社の外部委託先物流センター火災に伴う特別損失の計上に関するお知らせ」にてお知らせしたとおり、本火災による損害額39億1千万円を特別損失に計上しておりますが、本火災で被災した製品及び商品はすべて保険の対象となっており、当社では、当期末までに保険金額が確定され受取保険金を計上することを見込んでおります。保険会社による保険金額の確定に向けた手続きは進んでおりますが、今後、開示すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	32,893	25,073
受取手形	80	46
売掛金	21,050	-
売掛金及び契約資産	-	20,725
電子記録債権	831	575
商品及び製品	23,139	26,357
仕掛品	1,413	1,660
原材料及び貯蔵品	6,174	6,579
その他	3,668	3,684
貸倒引当金	△6	△6
流動資産合計	89,246	84,696
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	29,566	29,241
土地	14,198	14,136
建設仮勘定	1,649	1,356
その他（純額）	19,370	19,256
有形固定資産合計	64,785	63,990
無形固定資産		
のれん	16,508	15,768
その他	2,443	3,126
無形固定資産合計	18,952	18,894
投資その他の資産		
投資有価証券	16	16
敷金及び保証金	8,288	8,664
その他	4,972	5,641
投資その他の資産合計	13,277	14,322
固定資産合計	97,015	97,208
資産合計	186,262	181,904

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	44,044	51,581
電子記録債務	2,742	3,399
短期借入金	-	1,600
1年内返済予定の長期借入金	27,966	21,966
未払法人税等	884	397
賞与引当金	3,602	1,968
役員賞与引当金	46	-
その他	8,434	8,534
流動負債合計	87,720	89,448
固定負債		
長期借入金	42,997	36,752
役員退職慰労引当金	199	67
退職給付に係る負債	2,153	2,298
その他	3,323	3,107
固定負債合計	48,673	42,225
負債合計	136,394	131,673
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,953	3,953
資本剰余金	10,926	10,926
利益剰余金	38,551	38,898
自己株式	△3,500	△3,500
株主資本合計	49,931	50,278
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	△63	△47
その他の包括利益累計額合計	△63	△47
純資産合計	49,868	50,231
負債純資産合計	186,262	181,904

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年 4月 1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年 4月 1日 至 2021年12月31日)
売上高	208,337	223,439
売上原価	171,658	183,714
売上総利益	36,679	39,724
販売費及び一般管理費	30,911	33,897
営業利益	5,767	5,827
営業外収益		
受取手数料	26	28
受取賃貸料	328	372
受取補償金	51	-
受取保険金	-	134
補助金収入	223	164
その他	143	269
営業外収益合計	774	969
営業外費用		
支払利息	238	229
支払賃借料	249	285
その他	280	224
営業外費用合計	768	738
経常利益	5,773	6,058
特別利益		
固定資産売却益	398	6
役員退職慰労引当金戻入額	-	46
事業分離における移転利益	-	67
特別利益合計	398	120
特別損失		
固定資産廃棄損	375	-
減損損失	227	228
固定資産売却損	1	-
災害による損失	-	3,910
特別損失合計	603	4,138
税金等調整前四半期純利益	5,568	2,039
法人税、住民税及び事業税	1,235	1,705
法人税等調整額	922	△762
法人税等合計	2,157	943
四半期純利益	3,410	1,096
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,410	1,096

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年 4月 1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年 4月 1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	3,410	1,096
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	16	16
その他の包括利益合計	16	16
四半期包括利益	3,427	1,112
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,427	1,112

### (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、当連結会計年度の利益剰余金の当期首残高への影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	調剤薬局 事業	医薬品製造 販売事業	医療従事者 派遣・紹介 事業	計		
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	181,125	20,605	6,607	208,337	—	208,337
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	14,629	37	14,666	△14,666	—
計	181,125	35,235	6,644	223,004	△14,666	208,337
セグメント利益又は損失(△)	6,991	2,205	653	9,850	△4,082	5,767

(注) セグメント売上高合計及びセグメント利益合計と、四半期連結損益計算書の売上高及び営業利益との調整を行っております。なお、セグメント利益又は損失の調整額△4,082百万円にはセグメント間取引消去△113百万円及び全社費用△3,969百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「調剤薬局事業」セグメントにおいて、店舗資産(4店舗)等の減損損失227百万円を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	調剤薬局 事業	医薬品製造 販売事業	医療従事者 派遣・紹介 事業	計		
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	197,389	20,847	5,201	223,439	—	223,439
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	14,426	6	14,433	△14,433	—
計	197,389	35,274	5,207	237,872	△14,433	223,439
セグメント利益又は損失(△)	9,108	1,294	423	10,827	△5,000	5,827

(注) セグメント売上高合計及びセグメント利益合計と、四半期連結損益計算書の売上高及び営業利益との調整を行っております。なお、セグメント利益又は損失の調整額△5,000百万円にはセグメント間取引消去△72百万円及び全社費用△4,928百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「調剤薬局事業」セグメントにおいて、店舗資産(5店舗)等の減損損失228百万円を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。